



全国的なレベル向上のために 地域児童情報センター

今回は、育成財団が連携している社団法人小さな愛を分かち合う会(ブスロギ)の事業の柱の一つである、韓国全国の地域児童センターを支援する活動を行っている地域児童情報センター事業についてご紹介します。

本誌2009春号でもご紹介したとおり、韓国の児童福祉施設「地域児童センター」は、約3,200カ所^(*)設置されています。5年間で約12倍に増えた施設には、さまざまな運営課題があります。そのため、全国的な支援の仕組みが必要とされ、2005年から韓国政府がブスロギに委託して実施しているのが「地域児童情報センター」事業(以下、情報センター)です。

地域児童情報センターの事業



地域児童センターの今を捉える

2004年以降、それまでの民間活動が法律上の福祉施設となったことにより、施設数は爆発的に増えました。これにより認知度が高まり、ニーズが急激に拡大したとも言えます。

しかし地域や施設間の差がプログラム面などに現れてきました。情報センターでは全国の地域児童センターの活動を調査によって現状把握し、統計結果をホームページや冊子などで公表しています。

全国で9万4,000名^(**)ほどの利用児童(登録制)がいることから、CS(Customer Satisfaction:顧客満足度)調査にも取り組んでいます。これにより、子どもたちが地域児童センターを利用することによって、「うつ」や不安傾向の解消に効果が出ていることがわかっています。

現状分析により、今後の地域児童センターで実践していくプログラムの開発も行っています。

研修システム

プログラム開発やマニュアル構築を活かして、職員研修にも取り組んでいます。全国に約5,500人いる職員のために、年間を通

じてさまざまな研修を行っています。

例えば基礎講座では、実務者には子どもとの接し方からはじまり、センター長には運営方法、子どもに接するための哲学、会計システムまでを学べるようにしています。センター長の発展講座として、会計では経理だけではなく、補助金申請の方法、予算決算、ファンドレイジングも含めたトータルな管理運営を見越した研修プログラムを作っています。

中央がマニュアル化し、5つのブランチが研修を実施。全職員のうち、約3,000名が研修を受けられることを目標に活動されているそうです。

評価の仕組み

福祉施設としては評価が重要視されています。情報センターでは、評価指標マニュアルの開発や評価者養成に取り組んでいます。具体的な評価基準としては、施設管理、職員資質、事業運営、地域連携、家族支援などのカテゴリーごとに細かな指標が設けられています。

地域児童センターは最低基準があいまいなため、このような質の評価が活動レベルを上げていくことにつながり、利用児童の支援にも役立っているようです。

韓国はインターネットの普及率が高いためか、情報提供や講座など双方向性のコンテンツが充実していることが印象的です。研修の申し込みやテキストのPDF閲覧はもちろんのこと、施設の自己評価により、それに合わせたコンサルティングも受けられます。また全地域児童センターにはIDとパスワードが与えられており、オンラインで各種情報を報告することも可能です。

これまで3回にわたって、韓国の児童館事情をお知らせしてきました。育成財団では2月に韓国ブスロギのスタッフを招いてシンポジウムを開催することにしました。ぜひ日本の児童館関係者にも参加いただき、交流も含めて意見交換していきたいと思っています。

日韓放課後の子どもの居場所シンポジウム

平成22年2月27日(土)東京都内

韓国のブスロギからは、地域児童センターと1318HappyZone事業の紹介。日本の児童館関係者との議論も展開していきます。

- 主催:育成財団(朝日生命伸びゆく子ども基金事業)
- 共催:ブスロギ ■ 助成:日韓文化交流基金
- 協賛:SKテレコム(韓国)

<参考サイト> 地域児童情報センター <http://www.icareinfo.info/> (韓国語)

(*)2009年6月末調査。ちなみに前年同月から約500カ所増加。(**)2009年6月末調査。